

# 多元的一性もつ有機体を支える知の在り方とは

田村高幸 (Takayuki TAMURA)  
千葉大学大学院社会科学研究院

提題者：目時 修 (城西国際大学経営情報学部)

「居心地の良いクラスを ウェルビーイングの視点から探索する」

山田 瑞紀 (早稲田文化館日本語科)

「自己エスノグラフィという自己語りの観点が持つ可能性」

槇野 沙央理 (城西国際大学国際人文学部)

「言葉の取り扱い方(視点)の唯一無二性について」

有機体を形成しているお互いがそれぞれに応じてそれぞれが持っているものを活かしていくことによって、有機体は保たれ成長していく。このような有機体の在り方を支える知の在り方を教育学、社会学・人類学、哲学の観点から考えてみたい。教育学の観点からは目時修氏、社会学/人類学の観点からは山田瑞紀氏、哲学の観点からは槇野沙央理氏、による以下の表題及び内容での提題である。

目時 修(教育学) 「居心地の良いクラスをウェルビーイングの視点から探索する」

「居心地の良いクラス」をウェルビーイング(以下、**Well Being**)及び非認知的能力の視点から見直すことにより、「居心地の良いクラス」が非認知能力の増大や **Well Being** の高めることの重要な環境要因となることを述べる。詳しくは、「居心地の良いクラス」が子どもたちの「マインドセット(心のありよう)」に働きかけ、「性格の強み」と言われる「非認知能力(粘り強さ・誠実さ・自制心等が含まれる)」を増大させ、その結果、子どもの「**Well being**」が高められる、ということである。

山田瑞紀(社会学/人類学) 「自己エスノグラフィ(自己語り)の観点が可能にするもの」

「自己エスノグラフィ(自己語り)」は認識の難しい出来事をその当事者が体験に変えていくことを通して、当事者としての文化を記述する。結果として、「自己エスノグラフィ(自己語り)が可能にするもの」は、当事者に対してはその出来事を意味付け、その出来事についての当事者の認識や態度(文化)を明らかにすることもたらずものであり、他者に対しては、出来事やその出来事の当事者に対する態度の明示化を求めるものである。

槇野沙央理(哲学) 「言葉の取り扱い方(視点)の唯一無二性について」

多元的一性をもつ有機的な知のシステムとは、言葉を取り扱うさまざまな仕方(さまざまな視点)を「編成すること」ができ、その編成の中で、それ自体が成長していくひとまとまりの仕組みのことであるとして、このシステムが十全に形成されるには個々の視点がいかなるものであるのかの理解なしには難しい。このことために、個々

の視点がある言葉を意味あるものとするプロセスを明らかにすることにより、視点の個性や視点の唯一無二さを際立たせることができる。このための具体的に述べると、ウィトゲンシュタインのアスペクトについて考察を活用し、アスペクトをプロセス込みで考えることで、現在の得られているアスペクトを探求の結果として、そして、その成り立ちまでしめしうるものとする。

多元的一性を持つ有機体を支える知の在り方から、目時氏の提題を捉えてみる。

目時氏の「居心地の良いクラス」を居心地の良さをもつ有機体とする。すると、目時氏の提題は、**Well Being** の観点から多元的一性をもつ有機体を分析していることになり、内容としては、有機体のもつ「居心地の良さ」がその成員の「マインドセット(心のありよう)に」に働きかけ、成員に安心感・自己肯定感・他者肯定感を与え、その結果、成員の「非認知的能力」を増大させ、それが成員それぞれの「**Well Being**」の達成や増大をもたらす、ひいては有機体全体の成長をもたらすものととらえることができる。

同様に山田氏の提題を捉えてみる。多元的一性を持つ有機体として、認識のしがたい当該の出来事の当事者及び他者からなる社会としてみる。「自己エスノグラフィ」の機能はこの当事者に対しては、当該の出来事を体験として認識させ、認識を強化し、当事者としての文化を記述し、そのリアリティ・アイデンティ・立場をも理解できるようにするものである。一方、他者もしくは有機体全体に対する「自己エスノグラフィ」の機能は、出来事やその出来事の当事者に対する態度や文化的対応の明示化をもたらすものである。それは、有機体の成員ひとりひとり及び有機体自体がいかなるものであるのか、また、いかなる文化を持っているのかを明示する働きを持つことになる。そして、このことは、有機体の成員ひとりひとりにおける相互受容・相互理解、ひいては有機体の調和や成長にとって、とても重要なものとなる。

また、同様に槇野沙央理氏の提題を捉えてみる。有機体として多元的一性をもつ有機的な知のシステムとする。有機体の成員である知を取り扱うさまざまな仕方（さまざまな視点）がいかにそれぞれの立ち現われ（視点による取扱いの結果・アスペクト等）やそれぞれの立ち現われの成立のプロセスとなす関係によって相互に特徴づけられていること、そして、このことが、知相互の有機的関係の成立や有機体の成長に重要な寄与をしていると見ることが出来る。